

八幡平 大深沢東ノ又沢～関東沢下降

手嶋 亨

【日時】 2009年8月22日(土)～24日(月)

【メンバー】L手嶋、渡邊、坂村、國田

大深沢は以前から行きたかった沢の1つだ。トマではすでに10年ほど前に古野パーティが入っている。今回次郎ちゃんがある時に続いて2回目となるので、その時とは違うルートを設定した。また入会希望者の國田さんのお試し山行ともなった。お試しで2泊の沢はおそらく初めてのことだろう。ともかく安全に行かないといけない。

8月22日

遠いゆえに途中テントを立てて寝ることもなく、現地に向かった。田沢湖を過ぎ、以前はそこから入ることが多かった五十曲を過ぎて黒石林道に入る。ここの奥に大深沢の堰堤付近に降りる近道の林道がある。ちょっと行きすぎたが戻ってそこを見つけ、駐車して出発だ。

発電所用の道なのだが非常に急な下りだ。帰りのしんどさが思いやられる。20分も下ると大深沢に出会う。吊橋で左岸に渡りさらに上流に向かう。堰堤の先で入渓である。

始めは広い河原に行く。ソヤノ沢を過ぎてし

ばらく行くと、ゴルジュが始まる。意外と渡渉も大変だ。自分は大深沢は完全な癒し系の沢で、厳しいところなどないとタカをくくっていたが、いやいやそう甘くはない。ここからのゴルジュは女性には時にはしんどい渡渉が続いた。ちょうど双六谷か小倉谷のような感じであり難しさだ。



一度國田さんが足をすくわれて流されかけるが、すぐ下流の淀みで止まった。よかった。今回は國田さんだけには何事も起こしてはならない。小さな滝が越せ

ずに左から高巻き、最後は懸垂になる。その先のゴルジュの滝場はなかなか迫力がある。

次郎ちゃんが覚えていたのか、躊躇なくゴルジュ左の高みをへつり、8mの滝と続く滝を直登していった。皆もそれに続く。水量も多くなかなかに迫力のあるところだった。

ここを越えるとゴルジュは終わり、平凡な流れが続くようになる。障子倉沢を左に分け、綺麗な幅広の3m滝を越えると関東沢が近づく。少し手前の左岸ブナ林の中に最適地を見つけ、そこでザックを降ろした。すぐ前の河原にタープを張り、快適な焚き火と宴会を楽しんだ。

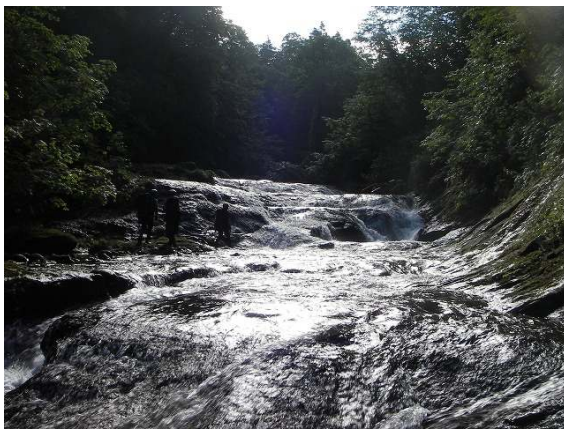
8月23日

今日は東ノ又沢を登り関東沢を下るルートだ。おそらく難しいところはないのだろうが、時間が読めないので早出をしようと思ひ、結局は6時半を過ぎてしまった。

テン場を出発するとすぐに関東沢の出合、そしてその先もこれまでの延長のような流れが続いた。8mの滝を境にナメが現れる。幅広15mの滝は通称ナイアガラの滝と呼ばれ大深沢の象徴的存在だ。記録によっては20mとか30mとかあるが、せいぜい15mだろう。

左すみのあたりを比較的簡単に登れる。一応安全のためにザイルを出すことにした。

ここを過ぎるとさらにナメが多くなる。朝日が当たってそれが水面をキラキラと輝かせ、非常に美しい。しばしで三俣に到着する。以前ゴールデンウィークの沢・山スキーの時に泊まり、カメさんが淵でイワナを随分釣った覚えがあるが、季節の違うこの時期にはそのような淵は存在していなかった。



左に仮戸沢、正面にナメの美しい本流の北ノ又沢、そして右手がこれから行く東ノ又沢だ。入口は平凡だがすぐにナメが現れ、その先には大きな釜を持つ美しい3mの滝が現れ、右側を楽しく越えて行く。

ここから沢はしばらく平凡になるが、ここでちょっとしたアクシデント。自分の左ふくらはぎに急に痛みを覚えた。すぐに数年前に右足をやって数週間棒に振った肉離れであることが理解できた。これからという時に大変なことになったと一時あせったが、それほどひどいものではないようだ。負担をかけないようにすれば何とか歩ける。メンバーにその旨を言い、すこしゆっくり目にしてもらった。

く越えて行く。

ここから沢はしばらく平凡になるが、ここでちょっとしたアクシデント。自分の左ふくらはぎに急に痛みを覚えた。すぐに数年前に右足をやって数週間棒に振った肉離れであることが理解できた。これからという時に大変なことになったと一時あせったが、それほどひどいものではないようだ。負担をかけないようにすれば何とか歩ける。メンバーにその旨を言い、すこしゆっくり目にしてもらった。

平凡な流れを大分歩いた頃、ちょっとしたゴルジュになり、滝場が続いた。問題になることもなく楽しく越えていく。再びナメが美しくなる。しかしそれが終わると沢が支流を分けるたびにくねくねと曲がり始め、距離がかせげなくなってきた。

屈曲は激しさを増し効率が悪いので、も



うこのあたりかというところでヤブに突入した。タケノコの名所八幡平だけあって、本当の密ヤブだ。しかし幸いにもそれほど時間が経たずに縦走路に飛び出し溯行は終了した。狙っていたところより、大分東に出てしまったようだ。最上流部では現在地が全くわからなかった。

縦走路を1時間ほど西進する。時に美しい湿原が現れて歓声上がるが、大方登山道としてはヤブの中だ。快適とは言い難い。関東沢にどこから降りるか迷ったが、登山

道が大きく屈曲してすぐのところ、沢に降りる斜面も急になってわかりやすそうな所から下降を開始した。

登りの時のような密ヤブを恐れたが、幸いにもすぐに水流が現れた。しかし倒木が多くて閉口した。まるでフィールドアスレチックのように障害物を越えていく。ようやく流れの太い本流に出合うと、俄然快適になる。

ナメがそこここに表れて上を振り向くと美しい。200mの長大なナメは、まるで朝方通った本流筋のナメを少し小さくしたようだ。8mの滝を右から巻き降りさらにナメを行く。10mの立った滝を左から巻く。振り返ると大きな釜を持った豪快な滝だ。う〜ん、この沢は東ノ又沢よりも美しくまた登っても面白そうだ。逆ルートがお勧めかもしれない。

これを過ぎ左から大きな支流を合わせると、地図上からはゴルジュが想像されたが、途中の滝で右側に巻き道を見つけた。明らかに釣り師の道だ。もう釣り師の領域なのだ。一応時間も押していたので少し心配していたが、一安心だ。





いずれにしても心配は杞憂で、ここからは何もなく関東沢の出合に降りることができた。テン場では各自釣りをしたり好きな時間を過ごし、再び宴会に突入した。しかし夜、つい先ほどまで満点の星空だったのに雨が降り出した。少しでも増水すると、下流部のゴルジュの渡渉は私や次郎ちゃん

はともかく、女性には厳しそうだ。夜中にいったん止んでいた雨がまた降り出した明け方には、正直気が気ではなかった。

8月24日

幸いにも起きる頃には雨は止んでいた。増水も全くない。朝食を食べながらラジオの天気予報を聞くと、東北はいい予報。ホッと胸をなでおろす。

下降は初日の全く逆ルート。途中落ちて着いていたふくらはぎの肉離れをまたやってみて足を引きずるようになってしまったが、もうそんなことは言っていられない。降りるのみだ。足をかばいながら何とか進む。

障子倉沢とヤセノ沢の途中からゴルジュが始まる。行きに直登した豪快な滝場は左から巻き降りる。懸垂したところは、何とか水線を行くことができた。これで主な難場は2つ越えたがまだまだ水量のあるゴルジュが続く。しかし國田さんも坂村さんも渡渉は随分と慣れたようで、ちょっとしたサポートで危なげなく下っていく。いつしか彼女達に対する不安も消えていった。

ヤセノ沢からしばらく行ったあたりでゴルジュは終わり、平凡な流れになる。やがて堰堤が見え、行きの入渓点に到着し、沢の下降は終了となった。そしてこの後行きに恐れた最後の林道の急登が待っていたのであった。

今回は自分が行きたかったところというより、國田さんのお試し山行としての意味合いが自分の中ではいつしか大きくなっていった。当初想像していたよりも渡渉など意外に厳しいところもあり、ともかく國田さんは無事に帰さないといけないという意識が強く、正直山行が終わった時には安堵の気持ちであった。

國田さんはこの山行をもってめでたく入会の運びとなりました。ほっ！

【グレード】3級

【行程】8/22 林道分岐駐車場所(10:40)～堰堤先入渓点(11:45)～ヤセノ沢出合(13:45)
～関東沢出合手前テン場(17:15)

8/23 テン場(6:35)～三俣(7:40)～東ノ又沢溯行～稜線(11:50)～下降点(13:00)
～関東沢下降～テン場(16:35)

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



8/24 テン場(6:30)～堰堤上入渓点(11:50)～駐車場所(13:15)

【地図】 玉川温泉、八幡平、曲崎山

